



# Osaka Slovakia Opera 2024

## ♪ コンサートオペラについて

コンサートオペラは、よく知られているアリアを中心に、ストーリーを再構成したオペラのダイジェスト版です。最小限の小道具と、表現力豊かなピアノの伴奏により、ソリストたちの歌を最大限に堪能することができます。私たちはこの形式をコンサートオペラと呼んでいます。



## 第一部 コンサートオペラ『ラ・ボエーム』

(ジャコモ・プッチーニ作曲 オペラ「ラ・ボエーム」ダイジェスト版)

### ・登場人物 / 配役

ミミ (貧しく美しいお針子, ロドルフォの恋人)	パトリーツィア・マロヴェッツ (M) / レーカ・クリシュトーフ (K)
ロドルフォ (若く貧しい詩人)	ドゥシャン・シモ / ペテル・マリー
マルチェッロ (ロドルフォと一緒に住む貧しい画家)	シモン・スヴィトック
ムゼッタ (パリ下町の元気で美しい歌手, マルチェッロの恋人)	カタリーナ・プロハースコヴァー

本公演はダブルキャストで、M版またはK版のいずれかになります。公演当日にお知らせいたします。

### ・あらすじ

1830年代のパリ。安アパートの屋根裏部屋で、四人の若き芸術家が共同生活をしている。クリスマスイブを祝おうと三人が町に繰り出すなか、詩人のロドルフォは原稿を書き上げるために一人で部屋に残る。そこに隣人のお針子ミミが蠟燭の火をもらいにやって来て、二人はたちまち恋に落ちる。一緒にロドルフォの仲間が待つカフェに出かけ、ミミは彼らや、画家のマルチェッロの恋人ムゼッタとも親しくなる。時が流れ、ミミは胸をわずらい、貧しいロドルフォは薬も買えないふがいなさを、酒で紛らわせようとする。困ったミミは、マルチェッロとムゼッタが働く酒場までやって来て、彼を呼び出し、助言を求める。そこにロドルフォが登場し、ミミは物陰に隠れる。ロドルフォが、彼女への愛、彼女を救えない絶望をマルチェッロに語ると、その様子に心を打たれたミミは、彼の前に姿を現す。二人は愛を確かめ合うが、お互いのために悲痛な別れを決意する。一方、ムゼッタが客と親しくすることに嫉妬したマルチェッロも、喧嘩別れをする。数か月が経ち、瀕死のミミを連れたムゼッタが屋根裏部屋に現れ、四人に助けを求める。ミミは愛するロドルフォとの再会を喜び、皆に囲まれて静かに息を引き取る。

## 第二部 オペラとオペレッタなどの名曲

1. 「伯爵夫人とスザンナの二重唱」…… W.A. モーツァルト 『フィガロの結婚』 より
2. 「聖なる神殿の奥深く」…… G. ビゼー 『真珠採り』 より、ナディールとズルガの二重唱
3. 「騎士はそのまなざしに」…… G. ドニゼッティ 『ドン・パスクワレ』 より、ノリーナのアリア
4. 「われらの胸に友情を」…… G. ヴェルディ 『ドン・カルロ』 より、カルロとロドリゴの二重唱
5. 「私のお父様」…… G. プッチーニ 『ジャンニ・スキッキ』 より、ラウレッタのアリア
6. 「トラントラントラントラン」…… G. ドニゼッティ 『愛の妙薬』 より、アディーナ、ネモリーノ、ベルコーレの三重唱
7. 「熱き口づけ」…… F. レハール 『ジュディッタ』 より、ジュディッタの歌
8. 「踊りたい」…… E. カールマーン 『チャルダースュの女王』 より、シルヴァとエドウィン の二重唱
9. 「谷よ、谷」…… B. ウルバニェッツ
10. 「誰も寝てはならぬ」…… G. プッチーニ 『トゥーランドット』 より、カラフのアリア
11. 「シャンパンの歌」…… J. シュトラウス 『こうもり』 より、フィナーレ